

平成 17 年 8 月 26 日
内閣府（防災担当）

中央防災会議
「東南海、南海地震等に関する専門調査会」（第 19 回）
議事概要について

1. 専門調査会の概要

日時：平成 17 年 8 月 26 日（金）10:00～12:00
場所：虎ノ門パストラル 新館 5 階 「ミモザ」
出席者：土岐座長、安藤、入倉、島崎、翠川、吉井の各専門委員、
 榊内閣府政策統括官（防災担当） 他

2. 議事概要

中部圏、近畿圏の検討対象とすべき内陸の地震について事務局より説明を行った後、各委員にご議論いただいた。委員からの意見等は以下のとおり。

阪神地域直下で発生する地震等、仮想的な地震の断層の設定の考え方について、整理しておくこと。

応急対策の検討対象とする 13 の地震を選定した考え方について、整理しておく必要がある。

経験的手法による震度分布推計では、低角の断層の場合、断層面の真上付近の震度が過小評価になっている可能性がある。波形計算による推計結果等との比較を通じて検証しておくこと。

中部圏の応急対策の検討対象とする地震について、さらに検証しておくべき。

断層の傾きやアスペリティの位置について、考え方も含め、整理しておく必要がある。

<連絡・問い合わせ先>

内閣府 地震・火山対策担当参事官補佐 尾崎 友亮
同主査付 檜山 洋平

TEL：03-3501-5693（直通） FAX：03-3501-5199